

大阪春季例会開催のお知らせ

2014年度第1回大阪例会を下記の通り開催いたします。皆様、多数ご参加ください。

日時：2014年3月29日（土）10時～16時40分

場所：大阪市立自然史博物館（大阪市東住吉区長居公園1-23）Tel. 06-6697-6221

HP: <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/> 通用門よりお入り下さい。

プログラム：

10:00～12:00	自由懇談・同定会, 大阪例会運営幹事会
12:00～13:00	昼食, 休憩
13:00～13:30	会務報告会・例会事務連絡
13:30～15:30	講演
15:40～16:40	「一人一話」会
17:30～19:30	懇親会（場所：アサヒビアケラー・アベノ） 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-5-36 Tel. 06-6641-6282

懇親会会費：4,500円（飲み放題）

講演：「日本のマルテントウダマシ亜科について」

演者：生川展行（三重県鈴鹿市）

要旨：テントウムシダマシ科は、日本から約70種が記録されており、その中でマルテントウダマシ亜科は不明種を含めて19種と、約3割を占めている最も種類数の多い亜科である。

しかし、体長が1～2mmと小さく色彩も地味なことから、図鑑にもごく一部の種が図示されているだけであり、また一般的な採集方法ではほとんど採集されないことなどから、全国的に記録は非常に少なく、一つの県で1～3種程度が記録されているだけである。

今回の講演では、日本から知られているマルテントウダマシ亜科19種についての解説や、採集方法などを紹介する。

例会・懇親会の事前の参加申し込みは不要です。当日、例会参加者はお茶代・資料代として200円を徴収いたします。懇親会は当日受け付けます。

2014年度秋季・年末例会・講演会の予定

秋季例会：9月27日（土）10時～16時40分。自由懇談会・同定会, 大阪例会運営幹事会, 会務報告会。

講演：「日本産オトシブミ, チョッキリの多様性と問題点」, 演者：沢田佳久氏（兵庫県神戸市）

年末例会：12月13日（土）10時～16時40分。自由懇談会・同定会, 大阪例会運営幹事会, 会務報告会。

「一人一話大会」または講演会の予定。

（大阪例会運営幹事 安井通宏）

第4回日本甲虫学会大会報告

第4回日本甲虫学会大会は、2013年11月23日（土）と24日（日）の2日間、東京農業大学厚木キャンパスにて開催された。日本昆虫学会関東支部第50回大会との合同開催ということもあり、215名の参加があり、おかげさまで盛況な会となった。

大会初日は日本昆虫学会関東支部会員の一般講演（4題）に続き、日本甲虫学会の総会が開かれた。その中で学会賞授与と規程が正式に承認されるとともに、記念すべき第1回目の受賞者が発表された。総会に続き、授与式が行われ、論文賞を受賞された井村有希氏からは受賞講演があった。

- ・論文賞：井村有希・松永正光会員
- ・功労賞：上野俊一名誉会員
- ・奨励賞：山迫淳介会員

引き続き一般講演（13題、うち11題が日本甲虫学会会員）が行われ、夕刻からの懇親会と続いた。懇

親会はキャンパス内のレストラン「けやき」で、渡辺泰明先生の乾杯の発声により開始した。予想を大幅に上回る当日参加者があり、会場は関係者で埋め尽くされた。

大会2日目はポスター発表(8題)、同定会にはじまり、一般講演(9題)、公開シンポジウム、分科会(ゴミムシ、ハネカクシ、水生甲虫、雑甲虫、カミキリムシ、ゾウムシ)と盛りだくさんのプログラムとなった。シンポジウムでは開催地の神奈川県や東京農大と関連の深い地域である伊豆諸島をテーマとして取り上げた。高桑正敏氏による、伊豆諸島の地史や昆虫研究誌の概観に続き、比較的研究の進んでいる4分類群(ガ、カミキリムシ、クワガタムシ、アリ)について岸田泰則氏、藤田宏氏、荒谷邦雄氏、寺山守氏の順に話題提供があった。それぞれのパネラーからは膨大なデータが提示され、伊豆諸島の昆虫相のホットな現状が伝わったものと確信している。シンポジウム終了後には、今回、功労賞を受賞された上野俊一先生への授与式があり、先生から、これまでの研究生生活を回顧するお話があった。

2日間を通じ、皆様のご理解とご協力もあり、大きなトラブルもなく無事、大会を終了することができたが、事務局責任者であった私の不備で、一部の参加者の名簿掲載漏れやゴミムシ分科会の要旨掲載漏れ等、大変なご心配とご迷惑をお掛けしたことをこの場を借りて深くお詫び申し上げる。

(大会事務局代表 小島弘昭)



図1. シンポジウムの様子.



図2. 懇親会の様子.



図3. 論文賞の受賞講演を行う井村氏.



図4. 奨励賞を受賞した山迫氏.